

福田康夫新首相に期待したいこと

-2007.9.26-

長野県議会 9 月定例県議会が明日 9 月 27 日から始まる。

ところで、昨日国会では、福田康夫自民党総裁が首相指名選挙で第 91 代の首相に選出された。大臣の任命も行われ、17 人の閣僚のうち 13 人に閣僚が再任である。自民党にすれば、まさに党存続の瀬戸際であるが、国民は自民党のお家の事情のことより、明日の自分たちの生活をどうするかを心配している。国は、国民はどんな政党であっても、自分たちの生活を守り、救ってくれる政党を支持する事を忘れてはいけない。

さて、福田新首相に期待したいことは、まず、広がった地域格差を解消することだ。経済は再生したと言っても、大都市と一部地域だけであり、地方はここ数年来、国の「骨太改革」によって地方交付税等の削減が厳しく、長野県のような人口 1 万以下の町村が多い地域は、実質公債費比率が高いところでは来年度の予算も組めない。ちなみに実質公債費比率 25%以上の村は、王滝村が 42%を筆頭に、25%以上が清内路村、根羽村など県内 5 村に及ぶ。

また、地方の医師不足、看護師不足など地方の行政サービスや危機管理体制は後退している。

国は地方あつての都市であり、上流域でしっかりと山をつくり山の管理をして、豊富で安全な水をつくり下流域に送っているからこそ、下流域が潤っていることを忘れてはいけない。

政府は、今こそ、国づくりの原点に戻るべきであり、地方が元気になり、そこに住む人々が地域に住んでよかったと思える施策を展開し実行することが肝要である。そのこと一つ一つ実行することによってはじめて、失った政府への信頼が回復できるはずである